

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：36101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350955

研究課題名(和文) SNSを用いた新しい子育て支援の効果の検証

研究課題名(英文) Verification of the Effect of a New Child Care Support System Utilizing Social Networking Service

研究代表者

小川 佳代 (OGAWA, Kayo)

四国大学・看護学部・教授

研究者番号：80342343

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：A県内の母親の育児ストレス状況や支援ニーズを分析し、本学を拠点とした新たな子育て支援活動を実践し、評価をした。その結果、母親の育児力の低下は明らかで、母親自身も一人きりの子育てによる孤立感を感じ、相談できる場所や支援者を求めている。そこで、SNSを活用した育児支援システムを立ち上げ効果を検証した。母親から、「楽しい」「活用できる」等の感想が得られた一方、安心できる仲間となら使いたいという母親もあり、運用上の課題も見つかった。

研究成果の概要(英文)：We analyzed child-rearing stress situations and support needs of mothers in Prefecture "A," implemented a new childrearing support system at our University, and evaluated it. The results showed that mothers' parenting skills have evidently declined. A mother engaged in childrearing alone feels a sense of isolation and looks for a place that she can feel free to visit and for supporters whom she can consult. Thus, we set up a child-care support system utilizing SNS and verified its effect. We were able to obtain impressions such as "delightful" and "can be utilized" from mothers, while some mothers commented they "would like to use the system only with their reliable companions." We considered these comments as operational issues to be addressed.

研究分野：小児看護学

キーワード：子育て支援 育児ストレス SNS

1. 研究開始当初の背景

近年、育児不安を持つ母親が増えていることや乳幼児虐待が社会問題となっており、子育て中の母親のストレス状況の把握やその支援方法についての検討が進められている。しかし、核家族化が進むことで祖父母からの経験的な育児方法の伝達の機会も減少し、家族の育児機能の低下を招いている。また、地域のつながりが希薄化している状況もあり、育児サポートの機能も十分には期待できない。その中で、子どもにどう接していいのかわからないなどの悩みや不安を抱えている母親は、相談する相手も乏しく、育児の孤立化が起こっている¹⁾。

そこで、個々の子育て環境に合わせて、母親のニーズに沿った支援のあり方を検討することが必要と考えた²⁾。

2. 研究の目的

本研究の目的は、2012年度に調査したA県内の子育て中の親の育児ストレス状況や支援に関するニーズをもとに、その現状を分析し、本学を拠点とした新たな子育て支援活動を実践し、その評価をすることとした。

子育て支援活動としては、SNS(Social Networking Service)を活用した支援活動と、本学の子育て支援に関わる専門家と学生、地域の子育てに関わる専門職の協働による子育てイベントであった。

3. 研究の方法

(1)地域子育て支援センターの活動に参加した子どもの親を対象としたアンケート結果の分析。

対象者はA県内6地域を網羅した16施設、計530名の母親。調査内容は属性、育児ストレス、ストレス解消法とその効果、育児サポートへのニーズや悩み、SNSについて等。分析方法は地域特性や年齢、子ども数とストレスやストレス解消法等とニーズ等との関連について統計的分析を行った。分析ソフトは

PASW Statistics Ver.21を使用。

(2)子育て支援に関わっている専門職者へのインタビュー調査

保育士、保健師、助産師各10名前後に「子育て家庭の不安や悩みの状況」と「どのような支援を実施しているか、あるいはどのような支援が必要か」などについて半構成的面接法によってデータ収集し、質的に分析した。

(3)大学内および地域子育て支援センターにおける支援活動と母親の育児ストレス軽減の効果の分析

子育て支援活動の定期的実施と効果の検証。大学施設内および子育て支援センターにおいて、研究者らが主体となって子育てイベントを実施し、その効果を分析した。

講演会の開催とその効果の検証

(4)SNSツールを使った子育て支援の開発及び稼働。(1)~(3)の研究によって、地域の子育て中の母親の現状を把握した上で、SNS活用による効果判定のために、SNSを利用した12名を対象としてインタビュー調査を行い、分析した。

4. 研究成果

研究方法の(1)~(4)に沿って、以下に述べる。

(1)地域子育て支援センターの活動に参加した子どもの親を対象とした調査結果の分析によって、以下の4点が明らかになった。

子育ての悩みは、子どもの健康や成長発達に関することが多いが、子どもとの関わり方や夫や祖父母との関係調整など多岐に亘っていた。

子育てのストレス解消は夫や親、友人との関わりを通して行っていたが、友人との関わりには地域差があった。

育児サポートに対するニーズとしては、気軽に集える交流の場や相談の場を求め

ていた。

育児ストレスの中で「一人きりの子育て」や「子どもの世話をしなければならない」と捉えることがストレスとなり、夫の無理解や非協力的態度がストレスを強めていた。

(2) 各専門職者へのインタビュー調査の結果、以下の3点が明らかになった。

保育士10名へのインタビュー結果から、母親の育児力は低下していること、相談者の不在が顕著であること、ネットで友人を探す親が増えていることなどが明らかになった。

助産師7名へのインタビュー結果から、助産師としての課題として、地域での活動を広げ、長期的な視点で継続した支援をする必要があると捉えていた。

保健師8名へのインタビュー結果から、母親からの相談は日々の食事や服装、世話の実際などのことが増加しており、様々な情報の中での適切な選択方法について悩んでいると捉えていた。

(3) 研究者らの企画した支援活動の効果

大学施設内および子育て支援センターにおいて、「産後ヨガ」「おもちゃ作り」「クリスマスリース作り」など、母親のリフレッシュを目指したイベントを計10回実施し、その効果を分析した。

70名の母親の参加があり、参加の評価は「とても良かった」「良かった」が69名であった。理由として「イベントの間子どもを預かってくれる」「体を動かせてリラックスできた」などがあつた。

講演会の開催とその効果の検証

平成27年度に汐見稔幸先生を講師とした子育て支援講演会を実施した。170名の参加があり、「とても良かった」65%、「良かった」11%と好評であった(参加者の24%は無回答)。「コーチング的な関わり方が参考になった」など今後の育児の

参考になったという感想が多かった。

(4) SNS ツールを使った子育て支援の開発及び稼働とその効果の検証

SNS を活用した子育て支援システム「すだっち」を Web 上に立ち上げ、登録制の子育て仲間を作った。その活動に先立ち、使用ルールを作成し、リーフレットを用いて県内各子育て支援センターに来る母親にセンター職員の協力を得ながら説明し、仲間を募った。

その活動の成果検証のために「すだっち」を活用した母親12名にインタビューを行い、内容を分類した。その結果、以下の3点がわかつた。SNS を用いた書き込みやコメントのやり取りは、市内の母親は顔見知りでないとは抵抗がある。

郡部に住む母親は、顔見知りでなくても SNS を用いた仲間とのやり取りを楽しく捉えていた。子育てに関する大学の専門家のコメントは、市内と郡部の両方の母親とも役立ったと捉えていた。

以上のことから、A 県内においても母親の育児力の低下は明らかであり、母親自身も一人きりで子育てをしている孤立感を感じ、相談できる場所や支援者を求めていることがわかつた。気楽に周囲の人と関係が持てる SNS を活用したシステムは、母親から「楽しい」「活用できる」などの感想が得られたが、一方、安心できる仲間となら使いたいという母親もあり、運用上の課題も見つかった。

<引用文献>

- 1) 小川佳代他：子どもが病気のと時の母親の対応 - A 町における保育所児と幼稚園児の比較，香川母衛学会誌 2(1)，2005，p 52 - 57。
- 2) 小川佳代他：地域子育て支援事業の効果に関する研究 - 母親の親性の発達に影響する要因 - 日本小児保健研究，69(3)，2010，p 432-437。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

1. 高橋順子・小川佳代・近藤彩・吉村尚美・

- 石原留美：大学を拠点とする子育て支援イベントに参加した母親の反応-，四国大学紀要(人文・社会科学編)，査読無，46，2016。(印刷中)
2. 石原留美・高橋順子・三木章代・近藤彩・新居アユ子・小川佳代：助産師が考える子育て支援の課題，香川母性衛生学会誌，査読有，15(1)，2015，p47-54.
 3. 加藤孝士・永井知子・小川佳代・富田喜代子・中岡泰子：子育て支援センターを利用する母親のリフレッシュと育児ストレスについて-リフレッシュ行動と効果期待のどちらが育児ストレスを予測しうるか-，四国大学紀要(人文・社会科学編)，査読無，45，2015，p9-19.
 4. 富田喜代子・中岡泰子・小川佳代・前田宏治・加藤孝士・高橋順子・石原留美・尾崎八代・中澤京子・三木章代・吉村尚美・江口実希：A県における子育て支援ニーズに関する調査研究(その3)，-保育士からみた子育て支援ニーズの変容について-，四国大学紀要(人文・社会科学編)，査読無，42，2014，p83-93.
 5. 前田宏治・加藤孝士・小川佳代・中岡泰子・富田喜代子・高橋順子・石原留美・尾崎八代・中澤京子・三木章代・吉村尚美・江口実希：A県における養育者のインターネットに関する意識-年齢・地域差に着目して-，四国大学紀要(人文・社会科学編)，査読無，41，2013，p87-95.
 6. 小川佳代・中岡泰子・富田喜代子・前田宏治・加藤孝士・高橋順子・石原留美・尾崎八代・中澤京子・三木章代・吉村尚美・江口実希：A県における子育て支援ニーズに関する調査研究(その2)-育児ストレスの因子構造，四国大学紀要(人文・社会科学編)，査読無，40，2013，p13-19.
 7. 中岡泰子・小川佳代・富田喜代子・前田宏治・加藤孝士・高橋順子・石原留美・尾崎八代・中澤京子・三木章代・吉村尚美・江口実希・富田真佐子：A県における子育て支援ニーズに関する調査研究(その1)-子育ての悩みやストレス解消法の地域格差-，四国大学紀要(人文・社会科学編)，査読無，40，2013，p1-12.
 8. 石原留美・江口美希・小川佳代：(総説)乳幼児を育てる母親の育児ストレスに関する文献検討-育児ストレスの要因から育児支援の課題を考える-，地域環境保健福祉研究，査読有，16(1)，2013，p1-8.
 9. 高橋順子・石原留美・宇山弓子：戦前戦後の三加茂町の出産を支えた助産院「さんば」活動-尾形富子氏の聞き取り調査によるナラティブデータを通して-，日本助産師会機関誌，査読有，67(4)，2013，p36-40.
- [学会発表](計13件)
1. 横関恵美子・小川佳代：海外文献における医療的ケアが必要な子どもの在宅での生活に関する研究の検討，第26回日本小児看護学会，2016年7月23日，別府国際コンベンションセンター(大分県別府市)発表確定
 2. 横関恵美子・小川佳代：医療的ケアが必要な子どもの在宅での生活に関する文献検討，第35回日本看護科学学会，2015年12月6日，広島国際会議場(広島県広島市).
 3. 高橋順子・石原留美・近藤彩・新居アユ子・三木章代・小川佳代・横関恵美子：大学を拠点とする育児支援イベントに参加した母親の反応，第56回日本母性衛生学会総会・学術集会，2015年10月18日，盛岡市民文化ホール(岩手県盛岡市).
 4. 中岡泰子・富田喜代子・加藤孝士・永井知子・小川佳代：子育て支援センター利用者の育児サポートニーズの実態，第62回日本家政学会 中国・四国支部研究発表会，2015年9月20日，鳥取看護大学(鳥取県倉吉市).
 5. Junko Takahashi, Rumi Ishihara, Aya Kondo, Fumiyo Miki, Ayuko Nii: A Historical Study on Child-Birth/Care with Votive Offerings to Oyasu-Gozen: An Analysis of Prayers in 1975-2013, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Program & Abstract Book, p348, July20-22, 2015(Kanagawa Pref. Yokohama City)
 6. 高橋順子・石原留美・近藤彩・新居アユ子・三木章代：於安御前の安産祈願からとらえる出産・育児文化の歴史的考察，第55回日本母性衛生学会，2014年9月14日，幕張メッセ(千葉県千葉市).
 7. 永井知子・小川佳代・前田宏治・中澤京子・加藤孝士：子育て支援センター利用者のストレスについて(2) リフレッシュ効果と育児ストレスとの関係，日本発達心理学会第25回大会，2014年3月23日，京都大学(京都府京都市)
 8. 加藤孝士・中岡泰子・富田喜代子・江口実希・永井知子：子育て支援センター利用者のストレスについて(1)-リフレッシュ効果への認識-，日本発達心理学会第25回大会，2014年3月23日，京都大学(京

都府京都市).

9. 尾崎八代・吉村尚美：A 県の子育て支援ニーズに関する調査研究(3) - 母子保健活動を振り返った保健師のインタビュー内容の検討 - , 第 59 回四国公衆衛生学会, 2014 年 2 月 7 日, 高知城ホール(高知県高知市)
10. 三木章代・石原留美・小川佳代・高橋順子：徳島県における子育て支援ニーズに関する調査研究 助産師による母乳育児支援の実態と課題 , 第 54 回日本母性衛生学会総会, 2013 年 10 月 5 日, 大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市)
11. 石原留美・三木章代・小川佳代・高橋順子：徳島県における子育て支援ニーズに関する調査研究 - 助産師が考える子育て支援の課題 - , 第 54 回日本母性衛生学会総会, 2013 年 10 月 5 日, 大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市)
12. 小川佳代・尾崎八代・中澤京子・吉村尚美・富田喜代子・中岡泰子・加藤孝士・前田宏治：母親の職業による育児ストレス - 因子構造の違い, 日本小児保健学会第 60 回学術集会, 2013 年 9 月 28 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
13. 高橋順子・石原留美・三木章代：戦前戦後の三加茂町の出産を支えた助産院「さんば」活動 , 第 69 回日本助産師学会, 2013 年 5 月 25 日, あわぎんホール(徳島県徳島市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 佳代 (OGAWA Kayo)
四国大学・看護学部・教授
研究者番号：80342343

(2) 研究分担者

富田 喜代子 (TOMIDA Kiyoko)
四国大学・生活科学部・准教授
研究者番号：70441582

高橋 順子 (TAKAHASHI Junko)
四国大学・看護学部・教授
研究者番号：30552096

中岡 泰子 (NAKAOKA Yasuko)
四国大学・生活科学部・教授
研究者番号：80248319

前田 宏治 (MAEDA Koji)
四国大学・生活科学部・准教授
研究者番号：50631727

石原 留美 (ISHIHARA Rumi)
四国大学・看護学部・講師
研究者番号：30631717

加藤 孝士 (KATO Takashi)
四国大学・生活科学部・講師
研究者番号：10631723

三木 章代 (MIKI Fumiyo)
四国大学・看護学部・助教
研究者番号：80552116

吉村 尚美 (YOSHIMURA Naomi)
四国大学・看護学部・助教
研究者番号：90552117

尾崎 八代 (OZAKI Yayo)
朝日大学・保健医療学部・講師
研究者番号：30552103

中澤 京子 (NAKAZAWA Kyoko)
四国大学・看護学部・助教
研究者番号：50552113